

令和 6 年度

長野市各財産区特別会計

決算審査意見書

松代財産区

豊栄財産区

西寺尾本郷財産区

今井財産区

信級財産区

長野市監査委員

7 監査第41号
令和 7 年 8 月 26 日

長野市各財産区
長野市長 荻 原 健 司 様

長野市監査委員	下 平	嗣
同	川 上	馨
同	小 泉	栄 正
同	手 塚	秀 樹

令和 6 年度長野市各財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第 233条第 2 項の規定により審査に付された、令和 6 年度長野市各財産区特別会計決算及びその附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

第 1	審査の種類	7
第 2	審査の対象	7
第 3	審査の着眼点	7
第 4	審査の実施内容	7
第 5	審査の結果	8
1	決算の概要	8
2	意 見	8
	松代財産区特別会計	9
	豊栄財産区特別会計	11
	西寺尾本郷財産区特別会計	13
	今井財産区特別会計	15
	信級財産区特別会計	17

(注) 比率(%)及び構成比率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入した。

令和 6 年度長野市各財産区特別会計決算審査意見

第 1 審査の種類

地方自治法第 233 条第 2 項の規定に基づいた決算審査で、令和 7 年 7 月 1 日から 8 月 19 日までの間、長野市監査基準に準拠して審査を実施した。

第 2 審査の対象

1 令和 6 年度長野市各財産区特別会計の決算

松代財産区特別会計

豊栄財産区特別会計

西寺尾本郷財産区特別会計

今井財産区特別会計

信級財産区特別会計

上記各財産区特別会計歳入歳出決算書

2 附属書類

歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

第 3 審査の着眼点

全国都市監査委員会実務ガイドライン「監査の着眼点」を踏まえ、法令に定められた決算書類相互の計数が一致しているか、また、事業は効率的に行われているかを審査の着眼点とした。

第 4 審査の実施内容

審査に当たっては、決算書及び附属書類が、地方自治法その他関係法令に準拠して作成されているかを確認し、計数が正確であるか、予算の執行が適正かつ効率的に行われているかについて、諸帳簿、証書類と照合するとともに、関係職員の説明聴取を実施した。

また、例月現金出納検査の結果も参考にして審査した。

第5 審査の結果

前記の方法により審査した限り、その重要な点において決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であると認められた。

決算の概要及び意見については以下のとおりである。

1 決算の概要

(単位 円)

区分 財産区別	収入済額	支出済額	差引残額
松 代 財 産 区	2,014,004	546,710	1,467,294
豊 栄 財 産 区	292,998	11,860	281,138
西 寺 尾 本 郷 財 産 区	565,525	327,071	238,454
今 井 財 産 区	373,195	280,351	92,844
信 級 財 産 区	602,906	399,837	203,069
合 計	3,848,628	1,565,829	2,282,799

2 意 見

財産区の公有財産である山林及び畑地等について、引き続き適切に管理されたい。

また、財産区について地域の関係者の理解と協力が得られるよう努め、持続的な運営を図られたい。

松代財産区特別会計

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 2,014,004 円に対する歳出決算額は 546,710 円で、歳入歳出差引残額 1,467,294 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	885,000	879,901	879,901	0	0	99.4	100.0
繰越金	693,000	1,133,578	1,133,578	0	0	163.6	100.0
繰入金	100,000	0	0	0	0	0.0	—
諸収入	2,000	525	525	0	0	26.3	100.0
合 計	1,680,000	2,014,004	2,014,004	0	0	119.9	100.0
5年度	1,538,000	1,851,963	1,851,963	0	0	120.4	100.0
比較増減	142,000	162,041	162,041	0	0	△0.5 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	109.2	108.7	108.7	—	—	—	—

収入済額は 2,014,004 円で、調定額に対する収納率は 100.0%である。

収入済額の主なものは、繰越金 1,133,578 円及び財産収入 879,901 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
総務費	1,650,000	546,710	0	1,103,290	33.1
予備費	30,000	0	0	30,000	0.0
合 計	1,680,000	546,710	0	1,133,290	32.5
5年度	1,538,000	718,385	0	819,615	46.7
比較増減	142,000	△171,675	0	313,675	△14.2ポイント
前年度対比	109.2	76.1	—	138.3	—

支出済額は 546,710 円で、予算現額に対する執行率は 32.5%である。

支出済額は、全額総務費である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	3, 411, 494	0	3, 411, 494	0	0	0
立木 (m ³) (推定蓄積量)	68, 770	766	69, 536	—	—	—

出資による権利の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
長 野 森 林 組 合	311, 200	0	311, 200
長野県林業センター	100, 000	0	100, 000
合 計	411, 200	0	411, 200

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	23, 659, 000	100, 000	23, 759, 000

豊 栄 財 産 区 特 別 会 計

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 292,998 円に対する歳出決算額は 11,860 円で、歳入歳出差引残額 281,138 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	20,000	20,839	20,839	0	0	104.2	100.0
繰越金	208,000	272,014	272,014	0	0	130.8	100.0
分担金及び負担金	0	0	0	0	0	—	—
諸収入	2,000	145	145	0	0	7.3	100.0
合 計	230,000	292,998	292,998	0	0	127.4	100.0
5年度	230,000	280,614	280,614	0	0	122.0	100.0
比較増減	0	12,384	12,384	0	0	5.4 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	100.0	104.4	104.4	—	—	—	—

収入済額は 292,998 円で、調定額に対する収納率は 100.0%である。

収入済額の主なものは、繰越金 272,014 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
総務費	180,000	11,860	0	168,140	6.6
予備費	50,000	0	0	50,000	0.0
合 計	230,000	11,860	0	218,140	5.2
5年度	230,000	8,600	0	221,400	3.7
比較増減	0	3,260	0	△3,260	1.5ポイント
前年度対比	100.0	137.9	—	98.5	—

支出済額は 11,860 円で、予算現額に対する執行率は 5.2%である。

支出済額は、全額総務費である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	225,771	0	225,771	0	0	0
立木 (m ³) (推定蓄積量)	19,871	265	20,136	—	—	—

西 寺 尾 本 郷 財 産 区 特 別 会 計

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 565,525 円に対する歳出決算額は 327,071 円で、歳入歳出差引残額 238,454 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率 ・ 収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	46,000	47,469	47,469	0	0	103.2	100.0
繰越金	302,000	302,928	302,928	0	0	100.3	100.0
繰入金	215,000	215,000	215,000	0	0	100.0	100.0
諸収入	2,000	128	128	0	0	6.4	100.0
合 計	565,000	565,525	565,525	0	0	100.1	100.0
5 年度	582,000	580,328	580,328	0	0	99.7	100.0
比較増減	△17,000	△14,803	△14,803	0	0	0.4 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	97.1	97.4	97.4	—	—	—	—

収入済額は 565,525 円で、調定額に対する収納率は 100.0%である。

収入済額の主なものは、繰越金 302,928 円及び繰入金 215,000 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
総 務 費	535,000	327,071	0	207,929	61.1
予 備 費	30,000	0	0	30,000	0.0
合 計	565,000	327,071	0	237,929	57.9
5 年度	582,000	277,400	0	304,600	47.7
比較増減	△17,000	49,671	0	△66,671	10.2ポイント
前年度対比	97.1	117.9	—	78.1	—

支出済額は 327,071 円で、予算現額に対する執行率は 57.9%である。

支出済額は、全額総務費である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地及び建物の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
原野 (畑)	20,132	0	20,132	0	0	0

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	3,825,000	△ 215,000	3,610,000

今井財産区特別会計

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 373,195 円に対する歳出決算額は 280,351 円で、歳入歳出差引残額 92,844 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	167,000	166,510	166,510	0	0	99.7	100.0
繰越金	100,000	106,637	106,637	0	0	106.6	100.0
繰入金	376,000	100,000	100,000	0	0	26.6	100.0
諸収入	2,000	48	48	0	0	2.4	100.0
合 計	645,000	373,195	373,195	0	0	57.9	100.0
5年度	643,000	349,276	349,276	0	0	54.3	100.0
比較増減	2,000	23,919	23,919	0	0	3.6 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	100.3	106.8	106.8	—	—	—	—

収入済額は 373,195 円で、調定額に対する収納率は 100.0%である。

収入済額の主なものは、財産収入 166,510 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
総務費	635,000	280,351	0	354,649	44.1
予備費	10,000	0	0	10,000	0.0
合 計	645,000	280,351	0	364,649	43.5
5年度	643,000	242,639	0	400,361	37.7
比較増減	2,000	37,712	0	△35,712	5.8ポイント
前年度対比	100.3	115.5	—	91.1	—

支出済額は 280,351 円で、予算現額に対する執行率は 43.5%である。

支出済額は、全額総務費である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	730,586	0	730,586	0	0	0
立木 (m ³) (推定蓄積量)	15,415	73	15,488	—	—	—

出資による権利の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
長 野 森 林 組 合	27,900	0	27,900

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	5,000,000	△ 100,000	4,900,000

信 級 財 産 区 特 別 会 計

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 602,906 円に対する歳出決算額は 399,837 円で、歳入歳出差引残額 203,069 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	102,000	141,233	141,233	0	0	138.5	100.0
繰越金	461,000	461,546	461,546	0	0	100.1	100.0
諸収入	2,000	127	127	0	0	6.4	100.0
合 計	565,000	602,906	602,906	0	0	106.7	100.0
5 年度	112,000	521,103	521,103	0	0	465.3	100.0
比較増減	453,000	81,803	81,803	0	0	△358.6 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	504.5	115.7	115.7	—	—	—	—

収入済額は 602,906 円で、調定額に対する収納率は 100.0% である。

収入済額の主なものは、繰越金 461,546 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
総務費	545,000	399,837	0	145,163	73.4
予備費	20,000	0	0	20,000	0.0
合 計	565,000	399,837	0	165,163	70.8
5 年度	112,000	59,557	0	52,443	53.2
比較増減	453,000	340,280	0	112,720	17.6ポイント
前年度対比	504.5	671.4	—	314.9	—

支出済額は 399,837 円で、予算現額に対する執行率は 70.8% である。

支出済額は、全額総務費である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	367,950.00	0	367,950.00	0	0	0
原 野	157,940.00	0	157,940.00	0	0	0
保 安 林	41,475.00	0	41,475.00	0	0	0
雑 種 地	297.00	0	297.00	0	0	0
宅 地	39.66	0	39.66	0	0	0
田	36.00	0	36.00	0	0	0
畑	416.00	0	416.00	0	0	0
合 計	568,153.66	0	568,153.66	0	0	0
立木 (m ³) (推定蓄積量)	9,752	△ 249	9,503	—	—	—

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	1,650,000	339,000	1,989,000

令和 6 年 度

長野市東条財産区特別会計

決算審査意見書

長野市監査委員

7 監査第42号
令和 7 年 8 月 26 日

長野市東条財産区
長野市長 荻 原 健 司 様

長野市監査委員	下 平	嗣
同	川 上	馨
同	小 泉	栄 正
同	手 塚	秀 樹

令和 6 年度長野市東条財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第 233 条第 2 項の規定により審査に付された、令和 6 年度長野市東条財産区特別会計決算及びその附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

第 1	審査の種類	7
第 2	審査の対象	7
第 3	審査の着眼点	7
第 4	審査の実施内容	7
第 5	審査の結果	7
1	決算の概況	8
2	財産に関する調書	9
3	意 見	9

(注) 比率(%)及び構成比率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入した。

令和 6 年度長野市東条財産区特別会計決算審査意見

第 1 審査の種類

地方自治法第 233 条第 2 項の規定に基づいた決算審査で、令和 7 年 7 月 1 日から 8 月 19 日までの間、長野市監査基準に準拠して審査を実施した。

第 2 審査の対象

1 令和 6 年度長野市東条財産区特別会計決算

東条財産区特別会計歳入歳出決算書

2 附属書類

歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

第 3 審査の着眼点

全国都市監査委員会実務ガイドライン「監査の着眼点」を踏まえ、法令に定められた決算書類相互の計数が一致しているか、また、事業は効率的に行われているかを審査の着眼点とした。

第 4 審査の実施内容

審査に当たっては、決算書及び附属書類が、地方自治法その他関係法令に準拠して作成されているかを確認し、計数が正確であるか、予算の執行が適正かつ効率的に行われているかについて、諸帳簿、証書類と照合するとともに、関係職員の説明聴取を実施した。

また、例月現金出納検査の結果も参考にして審査した。

第 5 審査の結果

前記の方法により審査した限り、その重要な点において決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であると認められた。

決算の概要及び意見については以下のとおりである。

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 813,018 円に対する歳出決算額は 461,721 円で、歳入歳出差引残額 351,297 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	3,000	4,268	4,268	0	0	142.3	100.0
繰越金	318,000	318,505	318,505	0	0	100.2	100.0
繰入金	490,000	490,000	490,000	0	0	100.0	100.0
諸収入	2,000	245	245	0	0	12.3	100.0
合 計	813,000	813,018	813,018	0	0	100.0	100.0
5 年度	691,000	688,141	688,141	0	0	99.6	100.0
比較増減	122,000	124,877	124,877	0	0	0.4 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	117.7	118.1	118.1	—	—	—	—

収入済額は 813,018 円で、調定額に対する収納率は 100.0%である。

収入済額の主なものは、繰越金 318,505 円及び繰入金 490,000 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
議会費	98,000	77,992	0	20,008	79.6
総務費	705,000	383,729	0	321,271	54.4
予備費	10,000	0	0	10,000	0.0
合 計	813,000	461,721	0	351,279	56.8
5 年度	691,000	369,636	0	321,364	53.5
比較増減	122,000	92,085	0	29,915	3.3ポイント
前年度対比	117.7	124.9	—	109.3	—

支出済額は 461,721 円で、予算現額に対する執行率は 56.8%である。

支出済額の主なものは、総務費 383,729 円である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	102,956	0	102,956	0	0	0
宅 地	940	0	940	0	0	0
原 野	99,334	0	99,334	0	0	0
そ の 他	8,060	0	8,060	0	0	0
合 計	211,290	0	211,290	0	0	0
立木 (m ³) (推定蓄積量)	5,486	0	5,486	—	—	—

出資による権利の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
長 野 森 林 組 合	10,500	0	10,500

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	16,230,742	△ 490,000	15,740,742

3 意 見

財産区の公有財産である山林及び池沼等について、引き続き適切に管理されたい。

また、財産区について地域の関係者の理解と協力が得られるよう努め、持続的な運営を図られたい。

令和 6 年度

長野市西条財産区特別会計

決算審査意見書

長野市監査委員

7 監査第43号
令和 7 年 8 月 26 日

長野市西条財産区
長野市長 荻 原 健 司 様

長野市監査委員	下 平	嗣
同	川 上	馨
同	小 泉	栄 正
同	手 塚	秀 樹

令和 6 年度長野市西条財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第 233 条第 2 項の規定により審査に付された、令和 6 年度長野市西条財産区特別会計決算及びその附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

第 1	審査の種類	7
第 2	審査の対象	7
第 3	審査の着眼点	7
第 4	審査の実施内容	7
第 5	審査の結果	7
1	決算の概況	8
2	財産に関する調書	9
3	意 見	9

(注) 比率(%)及び構成比率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入した。

令和 6 年度長野市西条財産区特別会計決算審査意見

第 1 審査の種類

地方自治法第 233 条第 2 項の規定に基づいた決算審査で、令和 7 年 7 月 1 日から 8 月 19 日までの間、長野市監査基準に準拠して審査を実施した。

第 2 審査の対象

1 令和 6 年度長野市西条財産区特別会計決算

西条財産区特別会計歳入歳出決算書

2 附属書類

歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

第 3 審査の着眼点

全国都市監査委員会実務ガイドライン「監査の着眼点」を踏まえ、法令に定められた決算書類相互の計数が一致しているか、また、事業は効率的に行われているかを審査の着眼点とした。

第 4 審査の実施内容

審査に当たっては、決算書及び附属書類が、地方自治法その他関係法令に準拠して作成されているかを確認し、計数が正確であるか、予算の執行が適正かつ効率的に行われているかについて、諸帳簿、証書類と照合するとともに、関係職員の説明聴取を実施した。

また、例月現金出納検査の結果も参考にして審査した。

第 5 審査の結果

前記の方法により審査した限り、その重要な点において決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であると認められた。

決算の概要及び意見については以下のとおりである。

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 3,452,136 円に対する歳出決算額は 2,632,430 円で、歳入歳出差引残額 819,706 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	1,001,000	1,022,607	1,022,607	0	0	102.2	100.0
繰越金	1,133,000	1,164,538	1,164,538	0	0	102.8	100.0
繰入金	926,000	926,000	926,000	0	0	100.0	100.0
分担金及び負担金	338,000	338,599	338,599	0	0	100.2	100.0
諸収入	2,000	392	392	0	0	19.6	100.0
合 計	3,400,000	3,452,136	3,452,136	0	0	101.5	100.0
5 年度	3,222,000	3,343,551	3,343,551	0	0	103.8	100.0
比較増減	178,000	108,585	108,585	0	0	△2.3 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	105.5	103.2	103.2	—	—	—	—

収入済額は 3,452,136 円で、調定額に対する収納率は 100.0% である。

収入済額の主なものは、繰越金 1,164,538 円及び財産収入 1,022,607 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
議会費	376,000	337,793	0	38,207	89.8
総務費	1,717,000	1,468,694	0	248,306	85.5
林業費	848,000	584,943	0	263,057	69.0
林道費	424,000	241,000	0	183,000	56.8
予備費	35,000	0	0	35,000	0.0
合 計	3,400,000	2,632,430	0	767,570	77.4
5 年度	3,222,000	2,179,013	0	1,042,987	67.6
比較増減	178,000	453,417	0	△275,417	9.8ポイント
前年度対比	105.5	120.8	—	73.6	—

支出済額は 2,632,430 円で、予算現額に対する執行率は 77.4% である。

支出済額の主なものは、総務費 1,468,694 円である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	576,525	0	576,525	0	0	0
原 野	594,338	0	594,338	0	0	0
事 務 所	528	0	528	447	0	447
合 計	1,171,391	0	1,171,391	447	0	447
立木 (m ³) (推定蓄積量)	85,576.33	△ 1,527.70	84,048.63	—	—	—

出資による権利の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
長 野 森 林 組 合	733,000	0	733,000
長野県林業センター	100,000	0	100,000
合 計	833,000	0	833,000

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	15,848,842	74,000	15,922,842

3 意 見

財産区の公有財産である山林について、間伐等の活動を継続し、適切に管理されたい。

また、財産区について地域の関係者の理解と協力が得られるよう努め、持続的な運営を図られたい。

令和 6 年 度

長野市大岡中牧財産区特別会計

決 算 審 査 意 見 書

長野市監査委員

7 監査第44号
令和 7 年 8 月 26 日

長野市大岡中牧財産区
長野市長 荻 原 健 司 様

長野市監査委員	下 平	嗣
同	川 上	馨
同	小 泉	栄 正
同	手 塚	秀 樹

令和 6 年度長野市大岡中牧財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第 233条第 2 項の規定により審査に付された、令和 6 年度長野市大岡中牧財産区特別会計決算及びその附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

第 1	審査の種類	7
第 2	審査の対象	7
第 3	審査の着眼点	7
第 4	審査の実施内容	7
第 5	審査の結果	7
1	決算の概況	8
2	財産に関する調書	9
3	意 見	9

(注) 比率(%)及び構成比率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入した。

令和 6 年度長野市大岡中牧財産区特別会計決算審査意見

第 1 審査の種類

地方自治法第 233 条第 2 項の規定に基づいた決算審査で、令和 7 年 7 月 1 日から 8 月 19 日までの間、長野市監査基準に準拠して審査を実施した。

第 2 審査の対象

1 令和 6 年度長野市大岡中牧財産区特別会計決算

大岡中牧財産区特別会計歳入歳出決算書

2 附属書類

歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

第 3 審査の着眼点

全国都市監査委員会実務ガイドライン「監査の着眼点」を踏まえ、法令に定められた決算書類相互の計数が一致しているか、また、事業は効率的に行われているかを審査の着眼点とした。

第 4 審査の実施内容

審査に当たっては、決算書及び附属書類が、地方自治法その他関係法令に準拠して作成されているかを確認し、計数が正確であるか、予算の執行が適正かつ効率的に行われているかについて、諸帳簿、証書類と照合するとともに、関係職員の説明聴取を実施した。

また、例月現金出納検査の結果も参考にして審査した。

第 5 審査の結果

前記の方法により審査した限り、その重要な点において決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であると認められた。

決算の概要及び意見については以下のとおりである。

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 5,999,190 円に対する歳出決算額は 5,799,186 円で、歳入歳出差引残額 200,004 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	5,290,000	5,298,145	5,298,145	0	0	100.2	100.0
繰入金	1,000	0	0	0	0	0.0	—
繰越金	700,000	700,090	700,090	0	0	100.0	100.0
諸収入	2,000	955	955	0	0	47.8	100.0
合 計	5,993,000	5,999,190	5,999,190	0	0	100.1	100.0
5 年度	8,992,000	9,046,527	9,046,527	0	0	100.6	100.0
比較増減	△2,999,000	△3,047,337	△3,047,337	0	0	△0.5 ポ イント	0.0 ポ イント
前年度対比	66.6	66.3	66.3	—	—	—	—

収入済額は 5,999,190 円で、調定額に対する収納率は 100.0% である。

収入済額の主なものは、財産収入 5,298,145 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
議会費	197,000	174,796	0	22,204	88.7
総務費	5,746,000	5,624,390	0	121,610	97.9
予備費	50,000	0	0	50,000	0.0
合 計	5,993,000	5,799,186	0	193,814	96.8
5 年度	8,992,000	8,346,437	0	645,563	92.8
比較増減	△2,999,000	△2,547,251	0	△451,749	4.0ポ イント
前年度対比	66.6	69.5	—	30.0	—

支出済額は 5,799,186 円で、予算現額に対する執行率は 96.8% である。

支出済額の主なものは、総務費 5,624,390 円である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	2,953,615	0	2,953,615	0	0	0
立木 (m ³) (推定蓄積量)	61,041	966	62,007	—	—	—

※信州新町中牧財産区と共有 大岡中牧財産区分は 737/1,000

出資による権利の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
長 野 森 林 組 合	176,000	0	176,000

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	23,003,314	875,793	23,879,107
有 価 証 券	10,000,000	0	10,000,000
合 計	33,003,314	875,793	33,879,107

3 意 見

財産区の公有財産である山林について、引き続き適切に管理されたい。

なお、基金の現金のうち約 1,387 万円は普通預金に預け入れているが、長野市大岡中牧財産区基金条例第 3 条第 1 項では「基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。」とされていることから、財産区の運営に必要な資金を除き定期預金等の有利な運用方法への変更を検討されたい。

令和 6 年 度

長野市信州新町中牧財産区特別会計

決 算 審 査 意 見 書

長野市監査委員

7 監査第45号
令和 7 年 8 月 26 日

長野市信州新町中牧財産区
長野市長 荻 原 健 司 様

長野市監査委員	下 平	嗣
同	川 上	馨
同	小 泉	栄 正
同	手 塚	秀 樹

令和 6 年度長野市信州新町中牧財産区特別会計決算審査意見について

地方自治法第 233条第 2 項の規定により審査に付された、令和 6 年度長野市信州新町中牧財産区特別会計決算及びその附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

第 1	審査の種類	7
第 2	審査の対象	7
第 3	審査の着眼点	7
第 4	審査の実施内容	7
第 5	審査の結果	7
1	決算の概況	8
2	財産に関する調書	9
3	意 見	9

(注) 比率(%)及び構成比率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入した。

令和 6 年度長野市信州新町中牧財産区特別会計決算審査意見

第 1 審査の種類

地方自治法第 233 条第 2 項の規定に基づいた決算審査で、令和 7 年 7 月 1 日から 8 月 19 日までの間、長野市監査基準に準拠して審査を実施した。

第 2 審査の対象

1 令和 6 年度長野市信州新町中牧財産区特別会計決算

信州新町中牧財産区特別会計歳入歳出決算書

2 附属書類

歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

第 3 審査の着眼点

全国都市監査委員会実務ガイドライン「監査の着眼点」を踏まえ、法令に定められた決算書類相互の計数が一致しているか、また、事業は効率的に行われているかを審査の着眼点とした。

第 4 審査の実施内容

審査に当たっては、決算書及び附属書類が、地方自治法その他関係法令に準拠して作成されているかを確認し、計数が正確であるか、予算の執行が適正かつ効率的に行われているかについて、諸帳簿、証書類と照合するとともに、関係職員の説明聴取を実施した。

また、例月現金出納検査の結果も参考にして審査した。

第 5 審査の結果

前記の方法により審査した限り、その重要な点において決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であると認められた。

決算の概要及び意見は以下のとおりである。

1 決算の概況

当年度の歳入決算額 3,701,270 円に対する歳出決算額は 3,149,406 円で、歳入歳出差引残額 551,864 円が翌年度へ繰り越されている。

(1) 歳 入

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	調 定 額	収入済額	不 納 欠損額	収 入 未済額	収入率・収納率	
						対予算現額	対調定額
財産収入	1,868,000	1,868,169	1,868,169	0	0	100.0	100.0
繰入金	1,729,000	1,258,000	1,258,000	0	0	72.8	100.0
繰越金	574,000	574,252	574,252	0	0	100.0	100.0
諸収入	2,000	849	849	0	0	42.5	100.0
合 計	4,173,000	3,701,270	3,701,270	0	0	88.7	100.0
5 年度	2,416,000	2,413,264	2,413,264	0	0	99.9	100.0
比較増減	1,757,000	1,288,006	1,288,006	0	0	△11.2 ポイント	0.0 ポイント
前年度対比	172.7	153.4	153.4	—	—	—	—

収入済額は 3,701,270 円で、調定額に対する収納率は 100.0% である。

収入済額の主なものは、財産収入 1,868,169 円及び繰入金 1,258,000 円である。

(2) 歳 出

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

(単位 円・%)

区分 款別	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
議 会 費	297,000	175,726	0	121,274	59.2
総 務 費	3,676,000	2,973,680	0	702,320	80.9
予 備 費	200,000	0	0	200,000	0.0
合 計	4,173,000	3,149,406	0	1,023,594	75.5
5 年度	2,416,000	1,839,012	0	576,988	76.1
比較増減	1,757,000	1,310,394	0	446,606	△0.6ポイント
前年度対比	172.7	171.3	—	177.4	—

支出済額は 3,149,406 円で、予算現額に対する執行率は 75.5% である。

支出済額の主なものは、総務費 2,973,680 円である。

2 財産に関する調書

(1) 公有財産

土地、建物及び山林の状況は、次表のとおりである。

(単位 m²)

区 分	土 地			建 物		
	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
山 林	2,953,615	0	2,953,615	0	0	0
立木 (m ³) (推定蓄積量)	61,041	966	62,007	—	—	—

※大岡中牧財産区と共有 信州新町中牧財産区分は 263/1,000

出資による権利の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
長 野 森 林 組 合	62,800	0	62,800

(2) 基 金

基金の状況は、次表のとおりである。

(単位 円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
現 金	7,518,000	△ 1,258,000	6,260,000

3 意 見

財産区の公有財産である山林について、引き続き適切に管理されたい。

また、財産区について地域の関係者の理解と協力が得られるよう努め、持続的な運営を図られたい。